



学校だより 5月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/rvokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

「行く道は楽しみ、帰り道は喜び」

～子ども読書週間に寄せて～

21日の土曜学習参観日では、たくさんの保護者の皆様にご参観をいただきましてありがとうございました。学校説明会、中休みキッズタイム、懇談会と併せて開催をいたしました。特に、キッズタイムでは、保護者の皆様にもご参加をいただき、子どもたちもいつも以上に楽しく遊んでいました。

どうぞこれからも、学校行事やオープンデーだけでなく、子どもたちの様子をご参観いただきたいと思います。学校はいつでも参観を受け付けております。よろしく願い致します。

さて、毎年学校だより5月号の巻頭言は、4月23日の「子ども読書の日」に因んだ話題を載せさせていただいております。表題の「行く道は楽しみ、帰り道は喜び」は気仙沼市立図書館に、コピーライターの糸井重里氏が寄贈した銘板に書かれたメッセージです。気仙沼市立図書館は、東日本大震災で被災し、閉館となっていましたが、今年3月31日に現地再建されました。私は、偶然、この図書館再建にご尽力をされた方のお話を伺う機会を得ました。気仙沼に限らず、被災地の多くで図書館が失われましたが、海外を含むたくさんの支援があり、まずは子どもたちのための図書館設備や移動図書館の運行等が行われたこと、全国の図書館が組織的に支援を継続していること、図書館の新設が、未だに続く復興の大きな励みとなっていること等を知りました。

改めて、本は人々にとって欠かせない存在であり、苦境の時には人を救い、希望を見出す勇気を与えるものだと感じました。糸井重里さんのメッセージは、図書館のすばらしさを、こんなにもわかりやすい言葉で伝えてくれています。

本校の学校図書館も平成30年度の活動をスタートしました。入学式翌日の中休み、1年生が学校図書館を目指す姿を見つけました。私は「まだ、開館していないのではないかな？」と不安に感じつつ、後ろを付いて行きました。私の心配をよそに、学校図書館は昨年度の図書委員会の子どもたちがしっかりと準備をして、来館する子どもたちを待ち受けていました。6年生の子どもたちにとっても、学校がスタートしたばかりです。早速、図書館の準備を行ってくれたことに感激しました。

本校では、すっかり学校図書館が子どもたちの生活の一部となって根付いていることを感じます。一か月近く経った現在では、いろいろな教科で学校図書館での授業が始まり、多くの子どもたちが学習で活用するための資料を探したり、中休みにお気に入りの本を読みきたりしています。本校の子どもたち一人ひとりにとっても、「行く廊下は楽しみ、帰る廊下は喜び」の学校図書館となるよう、図書委員会の活動をはじめ、一層の充実を図っていきたいと思います。

また、「行く道は楽しみ、帰る道は喜び」は、学校図書館だけではなく、学校生活そのものにも言えることです。進級して最初の月、4月が終わります。子どもたちには、それぞれのめあてに向かって、今日の活動を楽しみに登校し、充実感や達成感という喜びを胸に下校してほしいと心から願います。

そのためにも、私たち教職員は個々を大切に、しっかりと寄り添っていきます。何かご心配なこと、お気づきのこと等がございましたら、遠慮なくお声をおかけください。よろしく願い致します。